

「第9次福岡市基本計画の振り返り」についての総合計画審議会委員からのご意見に対する回答

ご意見等	対応の方向性等
<p>次期基本計画では、市が目指す姿を戦略としてつくっていくことが重要である。その上で、なぜそれを目指すのかということ、市民目線でわかりやすく計画に盛り込む必要がある。</p>	<p>市が目指す姿を市民の皆様と共有できるよう、市民目線に立ったわかりやすい計画の検討を進めてまいります。</p>
<p>人口が福岡市と同等であるスペインのバルセロナ市では、自治体行動計画提案書策定のプロセスに多くの市民が参加し、オンラインとオフラインの融合により議論を活性化させている。 福岡市においても、次期基本計画策定の論議に多くの市民参加を図る必要がある。</p>	<p>次期基本計画の策定にあたっては、多くの市民の皆様からご意見を頂くことが重要であると考えており、第9次基本計画の策定時には無かったテクノロジーも活用しながら、オンラインアンケートやワークショップ、一人一台のタブレット端末による小中学生からの意見募集などに取り組んでおります。 また、市民の主観を大事にする指標や進行管理のあり方についても検討してまいります。</p>
<p>基本計画の中に市民意見を多く取り入れることによって、市民の理解や参画の機運を高めることが重要である。 モバイル端末を活用するなど、新しい手法も使いながら市民の意見を集めるとともに、指標は、客観的なものだけではなく、市民一人一人の主観的な思いをくみ取りながら、進行管理を行っていく仕組みづくりにも取り組んでほしい。</p>	<p>基本計画に掲げる長期的な方向性の下、実施計画の中で選択と集中による事業の重点化を図るなど、市民ニーズや社会経済情勢の変化にも対応できる計画の検討を進めてまいります。</p>
<p>社会の変化が早く、想定外の問題が起こる中で、基本計画、基本理念はぶれない軸をつくり、その中で臨機応変な対応もできる計画をつくってほしい。</p>	<p>基本計画に掲げる長期的な方向性の下、実施計画の中で選択と集中による事業の重点化を図るなど、市民ニーズや社会経済情勢の変化にも対応できる計画の検討を進めてまいります。</p>
<p>基本計画にSDGsの理念を反映する必要がある。</p>	<p>第9次基本計画に掲げる「経済的な成長と安全・安心で質の高い暮らしのバランスがとれたコンパクトで持続可能な都市づくり」はSDGsの理念と方向性を一にするものであり、また、第3次実施計画では各施策とSDGsの各目標を紐づけ、事業を推進しております。 次期基本計画においても、SDGsの理念を踏まえた計画の検討を進めてまいります。</p>

「第9次福岡市基本計画の振り返り」についての総合計画審議会委員からのご意見に対する回答

ご意見等	対応の方向性等
<p>国連の分析によると、人が幸福を感じるのは、経済的余裕と一人一人を大事にしてくれているかという二点である。どのような施策、どういうまちの状況で市民が幸福感を感じるのか、それが基本計画のゴールである。</p>	<p>市民一人ひとりが、それぞれの幸せを感じることができる、持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現していくことは重要であると考えており、市民の主観を大事にする計画の検討を進めてまいります。</p>
<p>ウェルビーイングや幸せという感覚は一人ひとり違う中で、みんなが主観的に満足できるという視点を次期計画に取り入れてほしい。</p>	
<p>住みやすいと感じる市民が95%もいる一方で、満足度が若干低めな分野があるため、次期基本計画の策定にあたり、課題の検討が必要である。</p>	<p>各分野における市民の満足度を踏まえながら、指標のあり方を含め、次期基本計画の検討を進めてまいります。</p>
<p>都市の成長と生活の質の向上の好循環をつくっていくというのが現計画の狙いであり、様々な分野の取組みについて、好循環が起こっているかどうかを精査しながら、次期基本計画の策定に取り組んでほしい。</p>	<p>好循環の視点を踏まえつつ、各分野における成果と課題を精査しながら、次期基本計画の検討を進めてまいります。</p>
<p>この10年間、福岡市はうまくやってこれたと思うが、生活の質については、地域コミュニティや高齢者の移動手段などの課題解決に向け、ITなどを活用し、取組みを強化してほしい。 また、都市の活力については、柱となるスタートアップや観光について、中身をつくっていく10年になると思う。</p>	<p>先端技術などを活用した様々な課題の解決や、都市活力を生み出す施策の推進にしっかり取り組んでまいります。</p>
<p>民間企業は収益を上げているが、一世帯当たり、一人当たりの家計の可処分所得は下がっており、生活の質の向上に抜本的な力を入れて、次期基本計画の大きな柱にしていくべきである。</p>	<p>持続的に市民の生活の質を高めしていくことは重要であると考えており、次期基本計画においてもしっかり取り組んでまいります。</p>

「第9次福岡市基本計画の振り返り」についての総合計画審議会委員からのご意見に対する回答

ご意見等	対応の方向性等
<p>少子高齢化や経済回復については、市民の働き方改革や生活環境の整備、ジェンダー平等などの観点、学校給食費の無償化などの子育て世帯全体の生活支援となる施策、教員不足への抜本的な手だてが必要であり、これらを指標に入れるべきである。</p>	<p>少子高齢化の進展や経済情勢等を踏まえながら、必要な施策事業を推進するとともに、次期基本計画における指標についても検討を進めてまいります。</p>
<p>この10年間で、ユニバーサルデザインやバリアフリーの対象が広がってきており、しっかり取り組んでいく必要がある。</p>	<p>社会経済情勢の変化、価値観の多様化を踏まえながら、みんながやさしい、みんなにやさしいユニバーサル都市・福岡の実現に取り組んでまいります。</p>
<p>女性の社会進出が進んでいるが、男性の育児や家事などはあまり変化が感じられず、ワーク・ライフ・バランスが不十分である。</p>	<p>性別による固定的な役割分担意識の解消、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、引き続きしっかり取り組んでまいります。</p>
<p>医療、介護、福祉の労働力が不足し、外国人が増えてきている。こうした人口動態も踏まえながら、住みやすいまちづくりをしていく必要がある。</p>	<p>人口動態も踏まえながら、共に地域コミュニティを作り上げていく仲間として、多文化共生の取組みを推進するなど、外国人にも住みやすいまちづくりに取り組んでまいります。</p>
<p>介護や保育、教育などの労働力不足に対し、ICTやロボットを活用したDXなどの取組みを、福岡から発信していくことが次の課題だと思う。</p>	<p>ICTやロボットなどの先端技術を積極的に活用しながら、労働力不足への対応に取り組んでまいります。</p>
<p>基本計画の指標は、計画期間中は変えない方がいいと思う。一方で次期計画に向けて、これまでの指標をしっかりと精査、考察するとともに、量から質への転換、付加価値を追求していくことが重要になってくる。</p>	<p>指標については、継続的な把握、分析を行うとともに、社会経済情勢の変化等を踏まえ、必要に応じて補完指標を追加しながら計画の進行管理を行っております。次期基本計画においても、適切な指標のあり方について検討してまいります。</p>
<p>インバウンド関連指標については、社会経済情勢の変化を踏まえ、目標値を変更すべきではないか。 目標達成のため、クルーズ船の入港や航空路線拡大、コンテナ取扱量の増加に取り組んでいくという行政運営は無駄であり、現状に合わない成果指標の追求はやめるべきである。</p>	

「第9次福岡市基本計画の振り返り」についての総合計画審議会委員からのご意見に対する回答

ご意見等	対応の方向性等
<p>成長分野など、プラスの部分をより良くしていくことも大事だが、負の部分も大事にしてほしい。子どものいじめや不登校などの数字が増えたとしても、水面下に隠れて見えないよりはいい。負の部分にどう対応していくのかもしっかり考えながら、次期計画を描いていく必要がある。</p>	<p>福岡市の強みを活かすとともに、様々な課題にもしっかり対応できるよう、次期基本計画の検討を進めてまいります。</p>
<p>待機児童などについて、総論で解決したような表現になっているものがあるが、残されている課題をしっかり認識し、きめ細かに取り組んでいる部分も示していくべきだと思う。</p>	<p>各施策の進行管理にあたっては、指標や全体的な傾向だけでなく、個別の課題にもしっかり対応しながら取り組んでまいります。</p>
<p>次期基本計画の策定にあたっては、海外に開かれた都市づくりや、九州全体で発展していくためのリーダーという視点が必要だと思う。</p>	<p>第9次基本計画では、都市経営の基本戦略として「生活の質の向上と都市の成長の好循環を創り出す」こと、「福岡都市圏全体として発展し、広域的な役割を担う」ことを掲げております。好循環を実現し、持続的に市民の生活の質を高めていくとともに、福岡市が九州、日本、そしてアジアにおける役割を果たせるよう、引き続きしっかり取り組んでまいります。</p>
<p>九州のリーダーとして福岡市が引っ張っていくという視点で課題を整理し、選択と集中をもって次期計画に活かしてほしい。 また、福岡市はアジアのゲートウェイを目指しているが、アジアと繋がり、成長していると実感できる都市になってほしい。</p>	
<p>福岡市の発展により、人、物、お金などの波及効果が福岡県の各市町村に広がり、全体的な向上に繋がっていくようにしてほしい。</p>	
<p>福岡市には、生活している市民、市外から働きに来る人、市外から遊びに来る人がおり、この三者にとって魅力があり、良いまちだと思えるような計画を描く必要がある。</p>	

「第9次福岡市基本計画の振り返り」についての総合計画審議会委員からのご意見に対する回答

ご意見等	対応の方向性等
<p>公民館の利用率や、地域活動への参加率が低くなっている。コロナの影響がかなりあると思うが、コロナが終われば戻るというものでもなく、新しい仕掛け、工夫を検討していく必要があると思う。</p>	<p>令和5年度は新たに、地域活動の再開・活性化のきっかけとなる活動パッケージを提供するなど、地域活動への参加促進に取り組んでおります。また、地域活動への参加率向上のため、地域活動の意義や役割、魅力を伝える広報活動に引き続き取り組んでまいります。</p> <p>公民館については、コロナ禍で得た経験を生かし、主催講座でのオンラインの活用や、より多くの地域住民が気軽に立ち寄れる取組みの促進など、利用者増加に取り組んでまいります。</p>
<p>自治会・町内会への加入率が下がってきている。転入者の考えが多様化し、受け入れてもらえない部分がかかり出てきている。地域活動への参加率の目標値70%をしっかりと達成できるよう、地域から要請があった際は協力してほしい。</p>	<p>地域の実情に応じたきめ細やかな支援のため、令和4年度に補助金の見直しを行うとともに、区地域支援課の体制を強化したところです。</p> <p>今後とも、地域のご意見を十分お聴きしながら、持続可能な地域コミュニティづくりに向け、取り組んでまいります。</p>
<p>災害時に援助が必要な人たちがどこにいるのか分からないという課題があるため、次期計画においては、支援が必要な人にしっかりと支援が届く体制づくりに取り組んでほしい。</p>	<p>要支援者の避難支援体制の充実・強化を図るため、地域に避難行動要支援者名簿を配付のうえ、名簿を活用した自治会・町内会における避難支援体制づくりの支援に取り組むとともに、福祉事業者や地域による個別避難計画の作成支援に取り組んでまいります。</p> <p>併せて自主防災組織による防火・防災訓練や、要支援者が参加する避難支援訓練への支援を行うなど、今後とも災害に強いまちづくりを進めてまいります。</p>
<p>施策3-4の成果指標「市民のマナーに対する満足度」は初期値よりかなり上がっているものの、半分以上が満足をしていない現状にある。モラル・マナーについては行政だけでなく市民の協力が必要であり、次期計画においては、行政と市民が協力しながら成長し、住みやすいまちをつくっていくというような視点を取り入れてほしい。</p>	<p>モラル・マナー推進指導員による自転車安全利用、歩行喫煙・迷惑駐車防止の指導啓発とともに、「モラル・マナー向上市民運動の日」を中心に広報啓発に取り組んでおり、市民のマナーに対する満足度も平成25年度：33.8%に対し、令和4年度：47.4%と、13.6ポイント改善するなど、一定の成果を上げているものと考えております。</p> <p>引き続き、「人にやさしく安全で快適なまち福岡を作る条例」に基づき、市民や事業者、地域と連携して市民のモラル・マナー向上に取り組んでまいります。</p>

「第9次福岡市基本計画の振り返り」についての総合計画審議会委員からのご意見に対する回答

ご意見等	対応の方向性等
<p>妊娠・出産・子育て、高校を卒業するまでの支援策はかなり充実してきているが、次期計画には、婚活支援、奨学金の返済支援といった若者に対する支援をもう少し入れていいのではないか。</p>	<p>子どもや若者、家庭に対する幅広い分野における切れ目のない支援には、国や自治体、企業、団体、地域など社会全体で取り組んでいく必要があると考えております。 自治体として関係局間で連携し、市民に寄り添ったきめ細かな支援に取り組んでまいります。</p>
<p>福岡で働き、定住したいという若者に対し、住宅確保の支援策を考えていくことも大事だと思う。</p>	<p>若年世帯・子育て世帯の住宅確保の支援については、住宅市場が民間住宅で大半を占めている中で、本市や県、不動産事業者などの関係団体で「住宅市場活性化協議会」を結成し、共通の目標を掲げた上で、既存住宅購入にあたり子育て向け住宅等として改修する費用の一部を助成する県の取組みなど、構成団体が実施する様々な事業を、相互に広報・周知を図るなどの連携した取組みを推進しております。 また、本市独自の支援策として、住まいに関する情報の発信や、住宅に関する様々な相談対応に加え、子育て世帯を対象として、既存住宅の購入費用や引越し費用等の一部を助成する事業を実施しており、令和5年度からは、助成対象の拡充も行ったところです。 引き続き、若年世帯等に対しては、今後の状況等を踏まえ、必要な支援を行ってまいります。</p>
<p>次期計画が終わる頃には、温室効果ガス排出量実質ゼロを掲げる2040年まであと数年という状況であり、実現に向けて、多くの施策を取り入れてほしい。</p>	<p>2040年度に向けて、地球温暖化対策実行計画に基づき、市有施設におけるZEB化や太陽光発電設備の設置など、市が率先して省エネルギー化、再生可能エネルギーの導入等を推進するとともに、脱炭素型ライフスタイル・ビジネススタイルへの転換、機器や建築物の脱炭素化、次世代自動車の普及などに市民や事業者と一体となって取り組んでおります。引き続き、温室効果ガス削減につながる、より効果的な施策を不断に検討してまいります。</p>
<p>再生可能エネルギー発電所や太陽光発電の増設を図るとともに、市民や事業者がCO2排出の少ない電力を選んで購入することを補完指標に入れるべきである。 持続可能な地域循環型経済への転換、天神や博多駅一極集中の是正、省エネ、再エネなどによる新たな仕事と雇用の創出などを、次期計画の大きな柱にしていくべきである。</p>	<p>再生可能エネルギーの普及拡大にあたっては、再エネ設備の導入推進と再エネ由来電力等の利用拡大という両面で取組みを進めており、こうした観点も踏まえながら、次期基本計画の検討を進めてまいります。</p>

「第9次福岡市基本計画の振り返り」についての総合計画審議会委員からのご意見に対する回答

ご意見等	対応の方向性等
<p>中小企業のDX、新しい事業・分野への進出、新しいサービスの提供方法の開拓など、生産性向上のチャレンジを支援するとともに、次期計画には生産性に関する数値目標も入れてほしい。</p> <p>また、事業承継の課題解決のためには第三者承継などの支援が必要だと思う。既存の事業者を守って、それを未来につないでいくといった内容も次期計画に盛り込んでほしい。</p>	<p>中小企業におけるDX、新しい事業・分野への進出、生産性の向上や事業承継などへの支援については、「福岡市中小企業振興条例」に基づく「第2次 みんなで応援! 中小企業元気都市プラン」において、総合的かつ計画的に推進しており、次期基本計画における指標についても検討を進めてまいります。</p>
<p>この10年を振り返ると、コロナなどの外的要因により予想どおりいかなかった部分はあるが、当初設定した目的はかなり達成しており、概ねうまくいったと感じている。</p> <p>これからさらに福祉や子ども、教育などに力を入れていくには財源が必要であり、稼ぐ力を向上するため、新たな雇用を創出していくことも重要である。理系学生の流出を抑制するため、第二次産業にも少し力を入れていく必要があると思う。</p>	<p>新たな産業や雇用の創出については、政策推進プランにおいて、「新しい価値の創造にチャレンジするスタートアップ都市づくり」を重点分野に位置づけ、スタートアップ支援施設Fukuoka Growth Nextによる支援や、スタートアップビザなどにより、グローバルなスタートアップ都市づくりを推進するとともに、立地交付金制度などを活用し、知識創造型産業をはじめとする成長分野の企業や、本社企業に加え、付加価値の高い国際金融機能の誘致を促進しており、引き続き、取組みを進めてまいります。</p>
<p>施策5-4の成果指標「国際コンベンション開催件数」「国内コンベンション誘致件数」はいずれも激減しているが、来年度末の目標値達成の目途はあるのか。</p>	<p>「国際コンベンション開催件数」については、新型コロナウイルスの影響で大きく減少しておりますが、コロナ禍においても、オンライン等を活用した誘致活動を継続して取り組んできた成果等もあり、今後は、徐々に回復し、コロナ前の水準に戻っていくものと考えております。</p> <p>また、「国内コンベンション誘致件数」につきましては、2022年度に158件（目標値160件）に回復しており、今後も順調に伸びていくものと考えております。引き続き、関係機関と連携しながら、目標達成に向け、MICEの開催支援・誘致活動に取り組んでまいります。</p>
<p>施策5-6の成果指標「福岡市への外国人来訪者数」「外航クルーズ客船の寄港回数」はいずれも激減しているが、来年度末の目標値達成の目途はあるのか。</p> <p>また、クルーズ船の寄港状況はどうなっているのか。</p>	<p>福岡空港及び博多港からの外国人入国者数については、昨年10月の水際措置の大幅緩和以降増加しており、現在はコロナ前の水準にまで回復してきております。今後も福岡空港に直行便が就航している国をはじめ、多様な国・地域からの誘客に取り組んでまいります。</p> <p>また、「外航クルーズ客船の寄港回数」については、令和5年の寄港見込は年間111回となっており、本年8月の中国の団体旅行解禁による本格的な運航再開などから、令和6年の外航クルーズ船の岸壁予約は年間254回(7/3現在)となっており、目標値を達成できる見込みです。</p>

「第9次福岡市基本計画の振り返り」についての総合計画審議会委員からのご意見に対する回答

ご意見等	対応の方向性等
<p>施策8-4の成果指標「外国航路船舶乗降人員」「福岡空港乗降客数」は初期値を大きく下回っているが、来年度末の目標値達成の目途はあるのか。</p>	<p>外国航路船舶乗降人員については、平成28年に目標値に達するなど堅調に増加していましたが、令和2年以降は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け減少しております。現在、日韓定期航路、外航クルーズ船ともに受入れを再開しており、特にクルーズ船については、博多港への寄港要望があることから、今後回復するものと考えております。</p> <p>福岡空港の乗降客数については、平成23年以降、増加を続け、当初目標としていた1,800万人を超えて、令和元年には約2,468万人となっております。令和2年以降新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け減少しましたが、行動制限の緩和等により乗降客数は急速に回復しており、空港運営会社の計画によると今年度は2,000万人を超える見込みです。</p>
<p>観光のさらなる発展に向けて、ウォーターフロントへのアクセス性向上を図るとともに、渡辺通りの渋滞緩和のため、天神北ランプから地下を通して渡辺通1丁目方面に抜ける道を作るような大がかりなことをやってもいいのではないか。</p>	<p>都心部の交通対策については、これまでに、都心部への自動車流入の抑制等に取り組んできており、都心部の自動車流入は、減少してきたものの、依然として渡辺通りを中心に交通混雑が発生しております。</p> <p>天神地区における南北方向の交通負荷が渡辺通りに集中していることから、交通の分散を図るため渡辺通りを補完する天神通線の整備を進めていくとともに、引き続き、パークアンドライドやフリッジパーキングなどによる中心部への自動車の流入抑制を図るなど、都心部の交通対策に取り組んでまいります。</p> <p>また、ウォーターフロント地区の交通アクセスについては、今後のウォーターフロント地区のまちづくりを進めていくうえで重要であると認識しているため、都市交通基本計画の見直しを進めながら、今後のあり方について検討してまいります。</p>
<p>観光資源の整備が進んでいるが、まだまだ市民や観光客に知られていない。福岡市の魅力、歴史と観光スポットがこんなにあるというところをしっかりと情報発信してほしい。</p>	<p>福岡市観光情報サイト「よかなび」等において、「博多旧市街」や「Fukuoka East & West Coast」「リバーフロント」などのエリア観光の魅力を継続的に情報発信していくとともに、「FaN Week」「博多旧市街フェス」などのイベントに合わせて情報発信していくことで、福岡市の魅力を市民や観光客に伝えてまいります。</p>